

学生の視点から見た元気村！

「あきた元気ムラ・山菜ネットワーク」と首都圏大学との連携による地域生業と若手担い手人材育成の相乗的活性化方策に関する研究



地域伝承野菜「田沢長芋」の調理実演から(仙北市田沢地区)2018年3月

大正大学	専任講師	出川 真也	心理社会学部	3年	平良 菜月
地域創生学部	2年	佐藤絵里花	人間学部	3年	早川 誠

はじめに

出川研究室では、地域の知恵や技術を活用した暮らしや仕事の変革、生業の創出、人材育成等に着目。農山漁村の活性化に寄与する研究・教育・実践活動を目指した取組を進めています。



1. あきた元気ムラ探訪ー若者・学生による取材活動ー

(1) 実施内容



(2). 調査結果

地域ごとに特徴ある取組が展開していることを確認



(3) 課題と今後の展望

調査結果から、今後の活動・研究の方向性について検討

1) 地域の保全・整備に寄与する交流の仕組みづくり:

・地域の農山漁村資源の保全・整備プロセスに参加できるような交流の仕組み

2) 販売促進につながる学習プログラム構築

・製品の普及消費につながる学習会・体験会の充実化
(都市部教育・学習機関等との連携)

3) 担い手・人材育成方策の検討


・生産物を契機にして、移住・定住まで視野に入れた若手世代層への発信方法の検討
・地域資源を活かした人材育成に焦点を当てた交流・学習プログラムの充実化

中・長期的展望として

①首都圏学生・県内集落の交流・学習活動の活性化、地域産品の首都圏側への若者を通じたPR発信活動実施



②地域住民側の交流・受け入れ・人材育成の促進と首都圏学生の県内U・Iターン人材の育成



③地域資源を活かした生業形成と若手担い手人材の県内回帰の実現

→このために都市部若者・学生がどのように「元気ムラ」にかかわることができるのか、実践できること検討する必要

2. 都市部・学生運営ショップ「座・ガモール」PR構想

大正大学の学生運営ショップを活用したあきた元気ムラのPRと都市部若者との交流活性化等を構想しています。

(1) 学生運営ショップにおける元気ムラ産品販売計画

(2) 元気ムラ産品の料理メニュー開発とカフェ提供計画



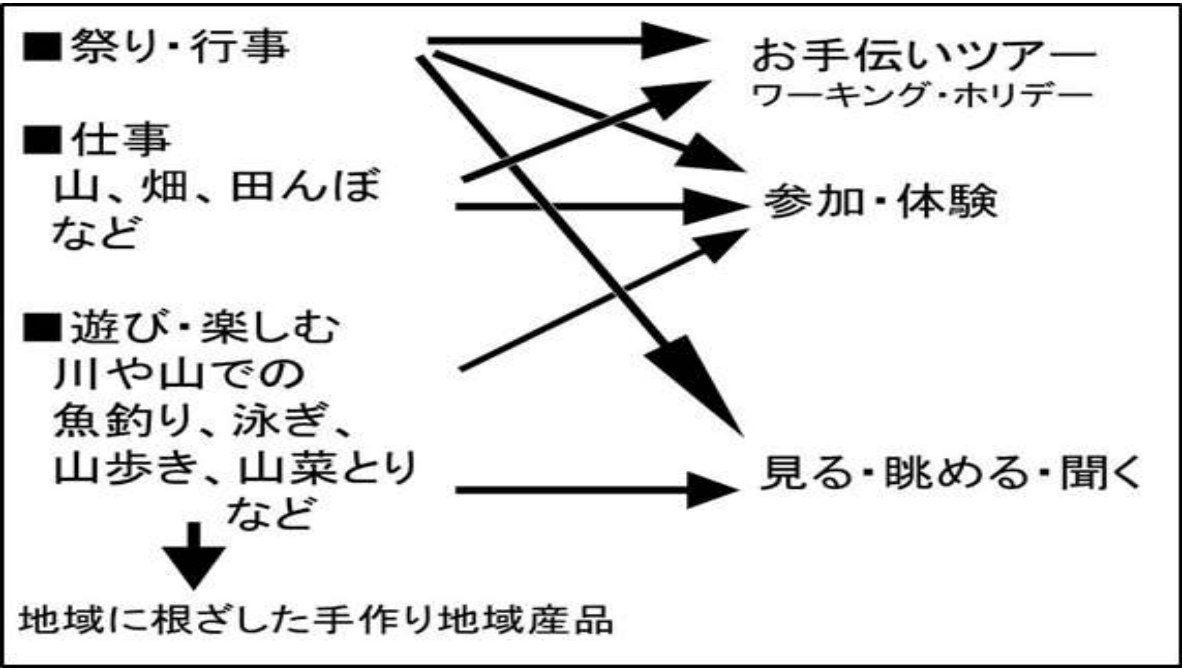
3. 元気ムラにおける新たなプログラム研究開発の検討

あきた元気ムラの多様な地域資源を活かした事業プログラムの開発を検討するため、地域の皆さんとの共同研究を計画しています。

1) プログラム策定実践調査(ロジックモデルを用いた活用資源と効果の可視化手順)



2) 地域の暮らしに根ざしたプログラムイメージ



これからも、地域を創る学びに向けて、地域の皆さんと共に挑戦を続けてまいります。ご清聴ありがとうございました。

